



医療連携だより[アシスト] ASSIST

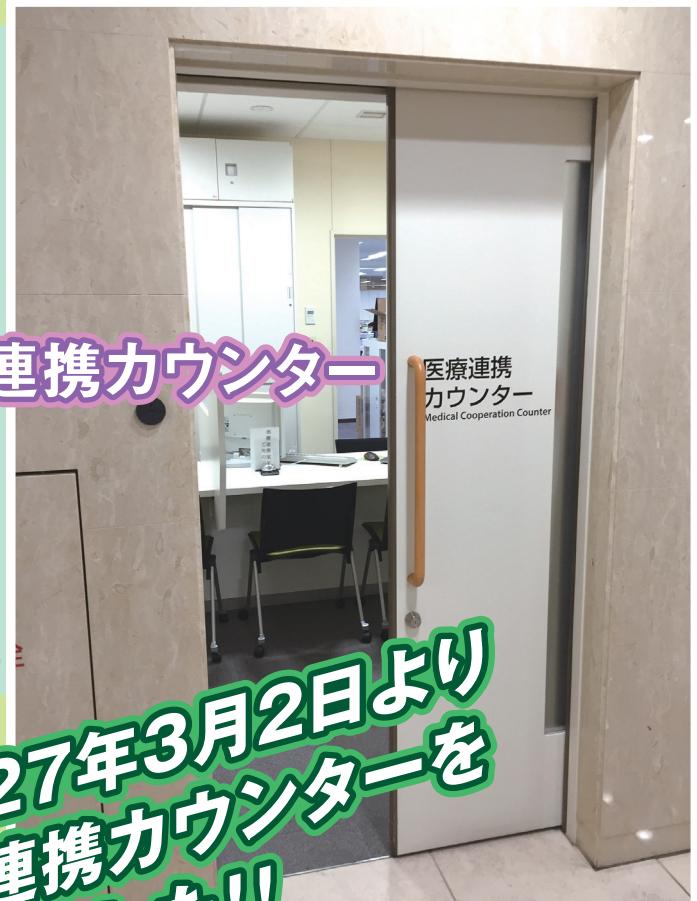
2015・4
No.34

帝京大学医学部附属病院

ふたり主治医制



医療連携カウンター

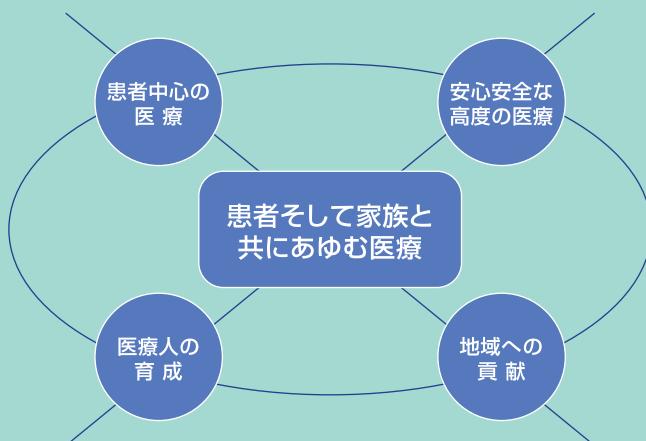


地域で支える医療

医療連携登録医



平成27年3月2日より
医療連携カウンターを
開設しました!!



CONTENTS

02 最新の薬物療法を中心に、がん患者さんを
総合的に支える医療とケアを提供しています

腫瘍内科 病院教授 帝京がんセンター 関 順彦

03 れんけいトピックス

06 編集後記

Medical Oncology



帝京大学病院では、2008年に腫瘍内科が開設され、私たち腫瘍内科のスタッフはがん診療のスペシャリストとして、さまざまな役割を担っています。今や日本人の2人に1人ががんになる時代、とはいっても、ひとくちに、「がん医療」といひひとりの病状や悩みに応じて、最適な診療を提供するために、日々取り組んでいます。

腫瘍内科の診療内容としては、紹介患者さんとの薬物療法を主体とする専門的のがん診療で、院内各診療科からのがん薬物療法の依頼や緩和ケアを含めた治療、抗がん剤治療を入院ではなく日常生活を維持しながら外来で行う外来化学療法室の運営、そして、他の医療機関を受診している患者さんがセカンドオピニオンを求めて受診されるときのセカンドオピニオン外来などを行っています。昨今、分子標的治療をはじめとして、がんの薬物療法の治療成績が向上しています。

また、副作用の専門家の関与が

つてもその内容は多岐に渡ります。患者さんひとりひとりの病状や悩みに応じて、最適な診療を提供するために、日々取り組んでいます。

最新の薬物療法を中心に、がん患者さんを中心的に支える医療とケアを提供しています

関 順 彦

腫瘍内科 病院教授
帝京がんセンター

求められています。こうしたことから、近隣の医療機関の先生方から、私たちが特に力を入れている肺がんをはじめとして、乳がん、消化器がん、原発不明がんなど、がんに関わるさまざまなお問い合わせが多くなってきました。

腫瘍内科では、がんに起因する症状や治療に伴う副作用や後遺症への対応策を講じるとともに、患者さんの全身状態や生活上の問題点、治療や療養についての願いなど、身体的だけでなく精神的、社会的な背景を踏まえた上でベストの診療やケアを提供すべく、院内の各部署の専門スタッフと密接に連携しています。肺がん、乳がん、消化器がん（消化管、肝胆脾）、婦人科がんなどについては、当該診療科の定期カンファレンスに参加し常に診療方針を共有し情報交換を行い、患者さんの視点に立った最適な治療を安全に行うための協力関係を築いています。また、新しい抗がん剤の治験や多施設共同試験グループによる大规模臨床試験などに参加し、より効果的で副作用の少ない新たな治療法の開発に取り組んでいます。

帝京大学病院は国が指定するがん診療連携拠点病院としての役割を担っています。東京都西部医療圏を中心に、地域におけるがん診療の拠点としての機能を果たすために、帝京がんセンターは、がん治療を担当する各診療科から構成されていますが、腫瘍内科は、このがんセン

腫瘍内科スタッフ

病院教授	関 順彦 (外来／火・金)
准教授	渡邊清高 (外来／木)
講師	市川靖子 (外来／火・水)
助教	本田 健 (外来／月)
助手	太田修二 (外来／水) 丹澤 盛 (外来／金)
客員教授	江口研二 (外来／月)

関 順 彦

帝京大学内科学講座腫瘍内科 病院教授
帝京がんセンター 外来化学療法室室長

1994年防衛医科大学卒業後、四国がんセンター、などを経て2008年帝京大学に着任、2013年より現職。肺がんを中心に種々のがん薬物療法の臨床試験に取り組む。紹介いただいた先生から「腫瘍内科に紹介してよかったです!」と言っていただける診療を行うことをモットーとする。



お問い合わせ先：帝京大学医学部附属病院 医療連携室

TEL:03-3964-9830 FAX:03-3964-9849

紹介状をお持ちの方の初診外来予約。

地域医療機関からの緊急受診についても対応します。

平成27年3月2日

医療連携力センターを開設いたしました



▲医療連携センター

帝京大学病院を受診される患者さんへ

患者さん1人に『2人の主治医』！！

帝京大学病院ではご近所にかかりつけ医をお持ち頂く
「ふたり主治医」制を推進しております

ご近所の「かかりつけ医」により紹介頂き専門的治療を行ないます。
状態が安定の場合は、「かかりつけ医」で健康管理して頂きます。

医療連携の流れ

帝京大学病院は「かかりつけ医」「帝京大学医療連携登録医」とともに患者さんを見守ります！！

●当院は東京の医療機関として厚生労働省の認定を受けた「特定機能病院」です。「救命・急性期医療」「がん医療」「高齢の専門医療」を軸とした医療を推進しております。

▲ふたり主治医制

ふだん患者さんの健康管理を行なっているご近所の「かかりつけ医」や密接に情報共有を行なっている「帝京大学病院医療連携登録医」などと連携し、機能分担を行うことによって、「2人の主治医」で継続した医療を提供することを目指しています。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



▲医療連携センター中

当院では厚生労働省の求める医療の機能分化をスマートに行なうことで、より質の高い医療を提供できるよう、「ふたり主治医制」を推進しております。

これは地域とともに医療を行なうことで、より安心で充実した医療を「地域全体」として患者さんに見守ります。これは地域とともに医療を行なうことで、より安心で充実した医療を「地域全体」として患者さんに見守ります。

当院では厚生労働省の求める医療の機能分化をスマートに行なうことで、より質の高い医療を提供できるよう、「ふたり主治医制」を推進しております。

そこで、「地域医療連携の更なる充実」の一つとして、当院で治療を終え、「他院への受診を勧められたが地域医療機関がわからない」という患者さんのために、ドクターに代わり、ひとりひとりのニーズに合ったスマートな紹介を目的とした「医療連携センター」を3月2日より開設いたしました。

これは「地域で支える医療」を掲げ内するところで、ドクターは診察に集中し、患者さんの満足度も上げようという試みです。

スタートしたばかりですので、今後も試行錯誤を繰り返しながら「完成型」に近づけていきたいと思います。当院より地域の先生方へご紹介させていただくことも多々あるかと存じますが、その節は、ご高診のほどよろしくお願ひ申し上げます。

栗山 剛樹
医療連携室
翼

平成27年3月22日
「がん検診受診啓発プロジェクト」を行ないました。



▲板橋区のキャラクター「りんりん」ちゃん、
東京都乳がん検診普及啓発事業の
公式キャラクター「モモ」ちゃんも参加!!



▲ヴァルディ君も参加しました

あり選手だけでなくご家族やご友人などの応援者も多く例年よりも会場は活気があふれていました。

そのような中、当院は板橋区、日本大学板橋病院とともに今年も「がん検診受診啓発プロジェクト」を行ないました。このプロジェクトは幅広い方々にがん検診の重要性について理解いただけるよう、多くの人が集まる所に出向いてPRする「ブッシュ型事業」の一貫として今回で3回目を数えます。がん検診の重要性については市民の方々の認知度も増してきたせいか、ブースはいつも長蛇の列ができるなり、どちらもランナーに負けないました。

今年の板橋ティマラソンは最高気温20度を超えて一足早い春の訪れを感じさせる中、ランナー約13000人が参加しました。また、気候が良かつたせいも

今年の板橋シ

い熱気がありました。

そのような中、当院は板橋区、日本大学板橋病院とともに今年も「がん検診受診啓発プロジェクト」を行ないました。このプロジェクトは幅広い方々にがん検診の重要性について理解いただきれるよう、多くの人が集まる所に出向いてPRする「ピッショ型事業」の一貫として今回で3回目を数えます。がん検診の重要性については市民の方々の認知度も増してきたせいか、ブースはいつも長蛇の列ができるようになりました。

あり選手だけでなくご家族やご友人などの応援者も多く例年よりも会場は活気があふれていました。

配布のために準備した3000個のピンクリボンはあつという間に終了し、肺年齢測定、乳がん看護認定看護師による自己触診レクチャー実施者も800名近くおりました。



▲板橋区坂本区長にも
お越しいただきました



▲板橋区医師会天木会長、水野副会長にもご来訪いただきました



▲ブースはいつも長蛇の列



▲当院のドクターもランナーで参加していました

医療連携登録医制度のご案内

当院では2013年4月より
地域医療機関とより密接な連携強化を目的として
医療連携登録医制度を実施しています。
現在、更新時期ですので新規・更新ともに登録医を募集しております。
ご希望の先生方は医療連携室までお問い合わせ下さい。

2015年4月～5月
医療連携登録医制度の更新時期になります。

Registered medical practitioner medical cooperation system



帝京大学医学部附属病院
医療連携登録医制度のご案内



新規・更新とともに募集しております。
詳細につきましては医療連携室まで
お問い合わせ下さい。

03-3964-9830

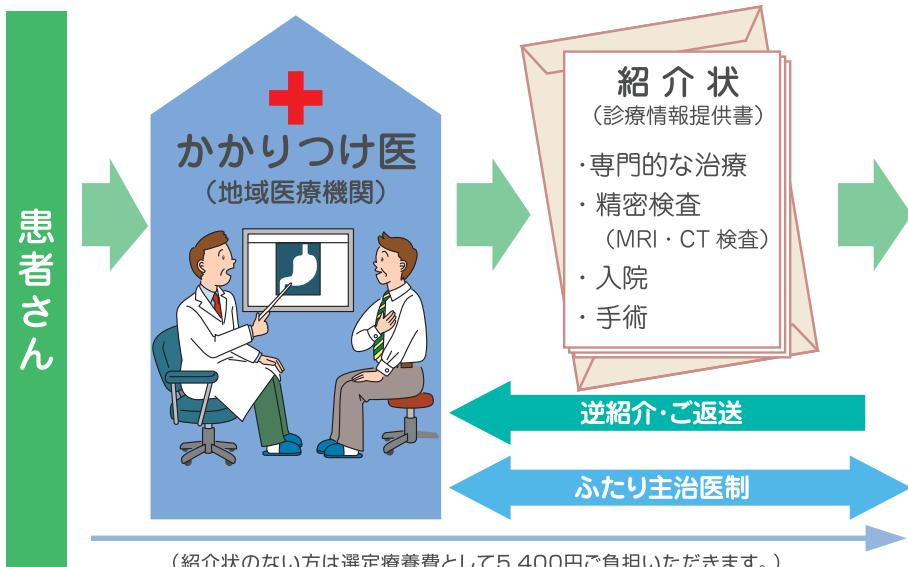
(月曜日から金曜日9:00～17:00) (土曜日9:00～12:30)

帝京大学病院では紹介状があれば初診でも予約*ができます。

※事前にお電話下さい

医療連携の流れ

帝京大学病院では、かかりつけ医との機能分担をすることにより、専門的な治療(手術、入院、精密検査など)をおこないます。



(紹介状のない方は選定療養費として5,400円を負担いただきます。)

紹介状をお持ちの患者さん

- ①予約電話(03-3964-1498)までお電話ください。
電話予約の際にご確認させていただく項目
(お名前、生年月日、性別、住所、電話番号など)

②予約完了

③当日は15分前までに初診受付までお越しください。

紹介状をお持ちでない患者さん

- ◎初診受付
診療受付時間 平日 8:30~11:30/13:00~14:30
土曜日 8:30~11:30
直接初診受付へお越しください。
※当日の診察状況によっては受診できない場合もございます。

アクセスマップ



- JR埼京線
「十条駅」北口より徒歩10分
 - 地下鉄都営三田線
「板橋本町駅」A1出口より徒歩13分
 - 国際興業バス
王子駅←→板橋駅
「帝京大学病院前」下車
赤羽駅西口→王子駅
「上十条4丁目」下車徒歩3分
赤羽駅東口→高円寺駅
「姥ヶ橋」下車徒歩5分
王子駅←→上板橋駅
「姥ヶ橋」下車徒歩5分
 - 都営バス
王子駅←→新宿駅西口
「姥ヶ橋」下車徒歩5分
 - タクシー
十条駅より基本料金内
 - 車 地下駐車場を完備
(21台収容可能)【有料】
※入院手続きや外来診療でお越しの方は
100分間無料(以後25分毎10円)

編集後記

「ASSISTについて」

ASSISTとは「人の仕事を手伝うこと。」「人を助けること。」「力を貸す。」などの意味をもつ単語であります。皆さんにはスポーツの中継等で「アシストする。」という言葉を耳にしたこともあるのではないでしょか。英単語が直接使用されるように、日本人に馴染み深い言葉であります。私共の願いといたしましては、本誌が地域医療機関との「医療連携のASSIST」の一助になれば幸いです。



特定機能病院
病院機能評価Ver.6.0認定
地域がん診療連携拠点病院
東京都災害拠点病院

東京都災害拠点病院
帝京大学医学部附属病院
〒173-8606 東京都板橋区加賀2-11-1
TEL.03-3964-1211(代表)
<http://www.teikyu-hospital.jp/>
(お問い合わせ) E-mail: teikai@med.teikyu-u.ac.jp

帝京大学病院 [検索](http://www.teikyo-hospital.jp)

ASSIST

General Thoracic Surgery

診療の特徴

肺癌は本邦の癌死因の第一位を占め、罹患数も増加の一途を辿っており、CTの普及による早期肺癌の発見機会の増加も手伝って、呼吸器外科の手術も全国的に増加傾向にあります。当科の診療は、肺癌はもちろん、転移性肺腫瘍、気胸、膿胸、縦隔腫瘍など様々な疾患に対応できる専門知識と経験、そして高齢者やあらゆる合併症に対処する総合力を特徴としています。各科にエキスパートを揃えた大学病院の特色を活かして、呼吸器内科医、腫瘍内科医、放射線科医やコメディカルなどとの協力により、患者さん本位の「切れ目のない」治療を提供する体制をとっています。

初診外来では、紹介元の先生方との連携により検査の重複を最小限にすることで手術待機の期間を減らすよう心掛けております。待機手術では初診から2

～3週間で手術を行える体制となっています。また、気胸や膿胸など急を要する疾患についても常時対応できる体制をとっています。病態や患者さんの希望に応じて早期の手術治療を行っています。



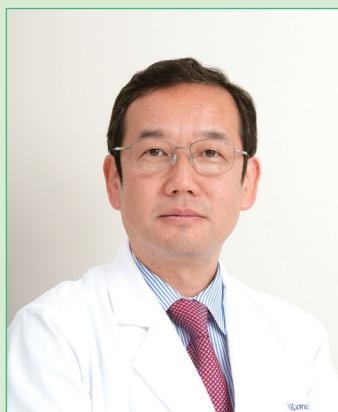
▲カンファレンス風景

肺癌に対する根治手術 根治性と低侵襲性の両立を目指して

肺癌の標準治療の肺葉切除を受けられる方のうち75歳以上が33%と高齢者が多く、大半に併存疾患があることから術前の的確なリスク評価と他科との協力による周術期管理を重視しており、重篤な術後合併症の発生率、周術期死亡率ともに全国平均をかなり下回ることができています。個々の患者さんに応じた手術、治療方針を呼吸器内科や腫瘍内科とのカンファレンスで決定しています。大部分の患者さんに完全胸腔下手術や胸腔鏡補助下といった低侵襲手術(キ

ズの小さな手術)を適応としている一方、進行癌に対しても根治の可能性があれば積極的に拡大手術も行っております。

医療技術や薬剤の進歩だけにとらわれず、肺癌診療グループが一体となって個々の病態や予備力、社会的な事情に合わせてテーラーメイドな治療を提案することにより、患者さんの真の幸福に貢献することを目指しています。



副院長
帝京がんセンター長
外科学講座 主任教授 川村 雅文

昭和57年慶應義塾大学卒業、
同大学外科学教室へ入局。
呼吸器外科を専攻し、同大学助手、
南カリフォルニア大学留学、
慶應義塾大学専任講師、同准教授を経て、
平成22年4月より
帝京大学医学部外科学講座 教授、
平成27年4月より現職。

	午前	午後
月曜日	高橋祐介	川村雅文
火曜日	松谷哲行	-
水曜日	-	-
木曜日	川村雅文	川村雅文
金曜日	松谷哲行	-
土曜日	高橋祐介	-

手術方法

	標準開胸手術	胸腔鏡補助下手術	完全胸腔鏡下手術
創の大きさ	20cm以上	7-10cm	4cm+1cm×2～3
肋骨切断	あり	なし	なし
開胸器による肋間開大	あり	あり	なし
術後の創痛	+++	+ or ++	+
拡大手術/進行癌の適応	○	△	×

胸腔鏡補助下手術

当科では精緻なリンパ節郭清と血管処理の安全性を重視して、胸腔鏡補助下手術を主体におこなっています。胸腔鏡カメラによるモニター映像と直接視野の双方を用いて行えること、気管支形成術や進行肺癌といった高難度の手術にも適応できることが特徴です。7～10cmのキズで開胸し、開胸器で肋間を広げながら行います。肋骨切断をしないことにより、標準開胸手術に比べて、出血量が少なく、術後の痛みが少ないという利点があります。

完全胸腔鏡下手術

早期の肺癌に対して患者さんの希望に応じて完全胸腔鏡下手術を行っています。胸腔鏡カメラによるモニター映像のみで行う手術なので高い技術レベルが要求されますが、肋間を広げないため、痛みや体への負担はさらに少なく済むというメリットがあります。通常、肺を取り出すための4cmほどのキズと1cmほどの穴2つまたは3つ使って行います。

手術後の経過

当科の肺癌根治術の平均所要時間は約2時間、平均出血量も100cc以下と安定した成績です。低侵襲手術の増加に伴って術後の平均在院日数も徐々に短くなっています。平均7～8日で退院となります。再発予防の目的で行う術後補助化学療法（抗腫瘍剤治療）についてもエビデンスに基づいて積極的に導入しています。

他院からの紹介患者の増加に伴って、当科の手術症例数は年々増加傾向にあります。さらなるスタッフや機器の拡充を行って、万全の対応を行える体制を整えていきます。



お問い合わせ先:

帝京大学医学部附属病院 医療連携室

TEL:03-3964-9830 FAX:03-3964-9849

紹介状をお持ちの方の初診外来予約。

地域医療機関からの緊急受診についても対応します。